

# 鈴木みどり

議員

政風会

## 防災ボランティア団体、自主防災組織などの連携を図り、地域の災害対応能力の強化を

### 連携と協働が重要であると認識し、防災・減災意識の高揚を図ろう

が、誰が指揮を執り、一時避難場所の解除は、どう避難者に知らされるのか。

の方、また結成されていない地区は、区長、区長補助員が参加された地区もある。73名の方に参加していただき、南三陸町視察報告や、三重大学の川口准教授を講師に迎え、大地震、大津波にそなえる 生き残り、生き延びて、次につなげるために」と題して防災講演をお願いした。その後、各自主防災会の連携について意見交換をしていただいた。

今後ボランティア関係の方の意見交換会の場をつくっていききたい。

問

(1) 災害ボランティア団体の連携について、本市は、安心・安全なまち、災害に強いまちづくり、また、しっかりとした防災力を高めていこうというのが市長の考えであるが、現在、どういう団体があるのか。

(2) 団体同士が連携することが重要と考える。

以前、自主防災会の全体会議を開催する予定と聞いたが、行われたのか。行われたのなら、参加者数、会議の内容を尋ねる。

(3) 本市の防災団体は、現在、誰がどこで活動しているのか分かります、つながりもあまりない。

災害時に今の状態では、せっかく皆さんが学習している知識が生かされないのではないかと考える。

防災ボランティア関係者が意見交換のできる機会を設けてみてはどうか。

(4) 現在、実施されている防災訓練は各コミュニティ単位で、毎年1地区が大規模訓練、他は通常の防災訓練を実施している。役員だけが参加するものになっており、子どもの参加もない。市全体での防災訓練を行う考えはあるか。防災訓練のあり方について市の考えを尋ねる。

(5) 一時避難場所は、多くの方の緊急避難所になる

答 総務部長

(1) 災害発生時に協力いただける団体は、日本赤十字社愛知県支部、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会など、県と「ボランティアの受け入れ体制の整備とネットワーク化の推進等に関する協定」を締結している団体、2番目として、赤十字奉仕団、3番目として愛知県防災ボランティアグループなどが考えられる。

市内の防災関係のボランティア団体は、各地区の自主防災会、弥富市赤十字奉仕団、弥富防災ゼロの会、防災まちづくりをすすめる会、弥富防災ハムクラブなどがある。

(2) 自主防災会の全体会議は、26年の1月に開催しており、各地区の自主防災会

答 総務部長

27年3月27日にも自主防災会の全体会を計画しており、南海トラフ地震の被害想定、津波避難シミュレーション結果説明などを予定しており、防災・減災意識の高揚を図っていただくよう考えている(実施済み)。

(3) 1月に市と弥富市社会福祉協議会の合同で市内にて活動するボランティアや防災に関心のある市民を対象に、防災に関する基礎知識の再確認と本市の防災の取り組みについての出前講座を開催して、意見交換をしていただいた。

答 総務部長

(5) 津波・高潮緊急時避難場所とは、本町の緊急時に命を守るために避難していただく場所である。

共助の精神のもと、誰が指揮を執るのかは避難された方で決めていただきたい。また、解除の知らせ方は、避難場所を使うような大きな災害時には、行政も混乱することが予想される。

したがって、解除の連絡も届かない可能性があるのでも、そういった場合は、そこに見える皆様方の判断でお願いすることも考えられる。